

# 行田 歴史系譜 295

歴史を語るこの「いっぴん」  
博物館の収蔵庫から

31

## 伏見宮貞敬親王書状〜忍藩主松平家へ嫁いだ女王〜 行田市郷土博物館所有

幕末までの松平家歴代当主の正室の実家を見ますと、多くは外様や譜代の大名家から嫁いでいますが、中には宮家から嫁いできた正室もいました。文政6年（1823）に忍藩主となった松平忠堯の正室は、伏見宮貞敬親王の二女幸宮詔子です。

伏見宮家は崇光天皇の第一皇子栄仁親王を初代とし、昭和22年まで550年にわたって続いた宮家で、貞敬親王は19代目の当主になります。幸宮は文化2年（1805）8月に生まれ、文政9年12月、22歳の時に松平忠堯に嫁ぎました。

今回紹介する書状は、貞敬親王から忠堯の三代前の当主である松平忠功に宛てたものです。松平家と伏見宮家のつながりは、紀州徳川家から松平家に



伏見宮貞敬親王書状

養子に入った松平忠功の生母が、伏見宮家15代貞建親王の養女であったことにより、忠功は病気で若くして松平家の当主の座を退きますが長命を保ち、忠堯の正室を伏見宮家から迎えることになったのです。

書状の内容は幸宮の留袖の祝儀が無事に済んだことを喜ぶとともに、親切にお世話をしてくれたことへの感謝や、以前から伏見宮家と松平家は所縁がありましたが、その縁が深くなったことが述べられています。また、幸宮のことをくれぐれもよろしく、幾久しくお世話くださるようにと忠功に懇願しています。

留袖とは女子が成人に達した証として、振袖を普通の長さの袖に変えることです。『伏見宮実録 貞敬親王実録』によれば、幸宮は文政11年12月1日に留袖を行っています。本書状はその翌年の正月23日に書かれたもので、宮家から大名家へという全く環境が違う場所へ嫁ぎ、遠く江戸で暮らす娘の行く末を思う父親の心情が表されている書状といえるでしょう。

（郷土博物館 鈴木紀三雄）

## おはなしさくらんぼ

一人でも多くの子供たちに物語の楽しさを伝えることで、健全な育成と社会教育の推進を図っているのが「おはなしさくらんぼ」です。

平成13年に設立され、現在7人の会員で活動している同会は、南河原地区を中心に保育園や幼稚園、小学校などで読み聞かせを行っています。年齢に合わせて作品を選び、絵本や紙芝居の他、パネル上でキャラクターの絵を動かしながら物語を進めるパネルシアターも取り入れています。

また、近頃は日本の昔話を知らない子も増えていることから、これらを多く取り入れて話のおもしろさが伝わるよう工夫しており、読み聞かせ後には、覚えてのせりふを楽しむように口にしながら帰っていく子もいるそうです。

「子どもの頃に聞いた物語の記憶は大人になっても残るので、それを次の世代にも受け継いでもらえるよう、本や紙芝居などの魅力をこれからも伝えていきたい」と、柔らかな笑みを浮かべながら語ってくれた代表の吉野信子さん。

読み聞かせにより子供たちの感性が豊かに育まれることを願い、同会の活動は続きます。

【会長】吉野 信子 【電話番号】557-0702

## つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～②



会員の読み聞かせはいつも子供たちに大好評

### 今月の表紙

9月9日、中央公民館で公益社団法人行田青年会議所 青少年育成委員会による絵本づくりが行われました。これは「あおぞら探検隊〜繋げる思いやりプロジェクト〜」の一環として実施されたもので、市内在住の小学3年生から6年生までの32人が参加。子供たちは、同会議所会員とともに「思いやり」や「優しさ」をテーマにオリジナルのストーリーを考え、絵を描きました。なお、製本作業を経て出来上がった絵本は、図書館に寄贈される予定です。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジェスト版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています